週間感染症情報

2023年5-8週　2023年1月30日より2023年2月26日まで

	5週	6週	7週	8週
麻疹				
風疹				
水痘（みずぼうそう）	2			
ﾑﾝﾌﾟｽ（おたふくかぜ）				
百日咳				
溶連菌感染症	1	1	1	3
手足口病		1		2
ﾍﾙﾊﾟﾝｷﾞｰﾅ	1			
伝染性紅斑				
感染性胃腸炎	50	45	32	16
ロタウイルス(再掲)				
便ｱﾃﾞﾉｳｲﾙｽ(再掲)				
突発性発疹	2	2	2	
伝染性膿痂疹（とびひ）		1		1
ヘルペス性口内炎				
ｱﾃﾞﾉｳｲﾙｽ感染症	1	5		2
RSウイルス感染症	1	1	2	4
マイコプラスマ感染症				
ﾋﾄﾒﾀﾆｭｰﾓｳｲﾙｽ			3	1
インフルエンザ	63	151	160	106
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ A	63	151	160	106
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ B				
新型コロナウイルス感染症	75	70	34	29

遅くなりましたが、2023年5週から8週の4週間の報告です。新型コロナウイルス感染症の報告は2023年に入り減少していますが、2022年と同程度の報告数があり下がりきっていません。発熱外来の受診者は減少して、陽性率も低下しています。オミクロン対応株ワクチン接種の希望者は少なくなり、枠が余っています。

3学期になり増加したインフルエンザAの報告ですが、市内での大きな流行になることはなく、第7週をピークに減少しています。右下の教育委員会からの報告は3月1日までのまとめです。6～7週にかけて西中・東中の部活を介して学級閉鎖が出る大きな流行になりましたが、コロナに対する感染対策もあり、小学校での大きな流行は起きていません。

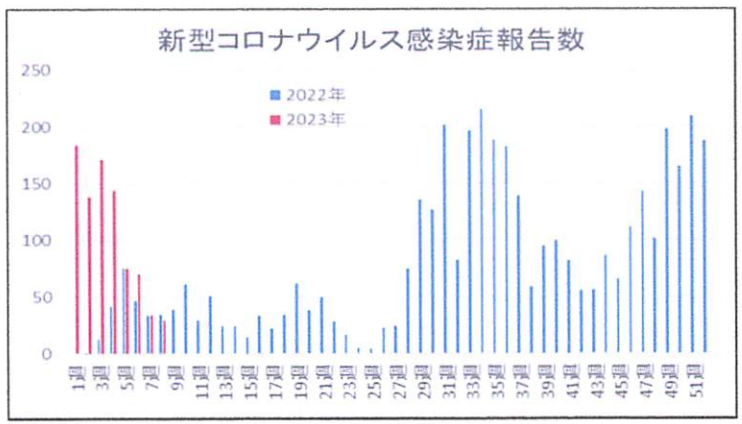
保育園では、発熱で早退した園児が出たクラスは大半の園児が感染しています。感染対策として、クラス単位での保育が行われており、クラス内流行で終息しています。

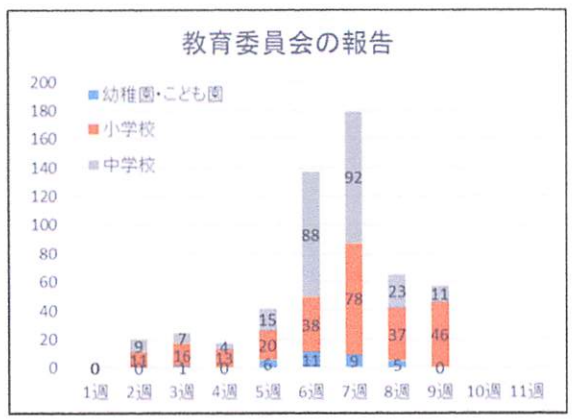
感染性胃腸炎は、減少しています。発熱で発症して、コロナと鑑別を要するカンピロバクター腸炎をみかけます。

乳幼児の間では、RSウイルス、ﾋﾄﾒﾀﾆｭｰﾓｳｲﾙｽ、アデノウイルスなど、コロナやインフルエンザ以外の感染症が増えてきています。検査をしてきて下さいと言われて受診する児も多く、全員に検査をするわけにも行きません。

園での流行情報は大変役に立ちますが、情報共有が困難で診断に苦慮しています。

コロナ禍でワクチン接種率が低下しています。ワクチンで予防できる病気はワクチンで予防しましょう。





（感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。　http://miyakenaika.com ）

三宅内科小児科医院　三宅真砂子